

資源循環型社会の形成

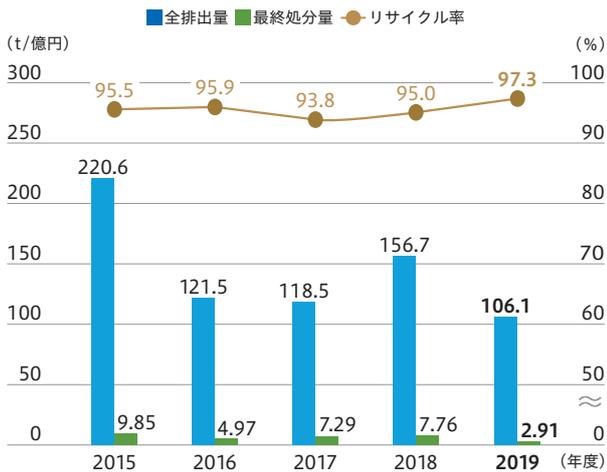
建設廃棄物排出量の推移

2019年度の廃棄物排出量は106.1 t/億円と前年度から50.6 t/億円の減少となり、最終処分量も4.85 t/億円減の2.91 t/億円と大きく減少しました。

2018年度に比べ廃棄物排出量が大きく減少したのは、建築工事における解体工事が前年に比較して少なく、コンクリートガラ的大幅減につながったためと考えています。

リサイクル率の目標値については、2016年度から全社目標を94%から96%に引き上げました。2019年度は前年度よりさらに改善し、97.3%と目標を達成しました。要因は建設汚泥のリサイクル率が89.0%から99.3%へと大幅に改善したことによるものと考えています。

完成工事高1億円当たりの建設廃棄物排出量の推移

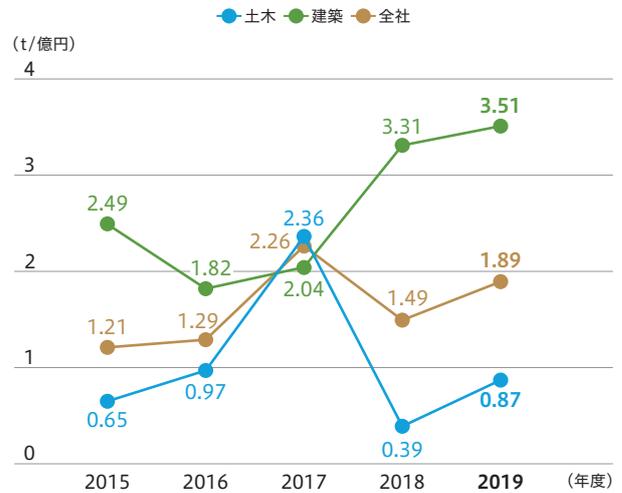


混合廃棄物排出量の推移

2019年度の混合廃棄物の完成工事高1億円当たりの排出量は、全社では1.89 t/億円、土木工事は0.87 t/億円、建築工事は3.51 t/億円となりました。

全社で2018年度に比べ0.40 t/億円の増加となりましたが、2017年度の草木混入土の大量排出に伴う増加を特殊工事として非算入とすれば、全社的な傾向としては微増と考えています。土木工事については浚渫時における海底ゴミが混合廃棄物として排出されることが要因と考えています。建築工事については混合廃棄物の排出割合が高いリニューアル工事の増加が主たる要因と考えています。全体的には混合廃棄物の分別等の適切な処理は、引き続き有効に実施されていると考えています。

完成工事高1億円当たりの混合廃棄物排出量の推移



リサイクル量の推移

完成工事高1億円当たりのリサイクル量は、全社で103.21 t/億円、土木工事は114.47 t/億円、建築工事は85.39 t/億円となり、前年度に比べ建築工事が大きく減少し、土木工事が微増、結果として全社では減少となりました。

要因としては建築工事において、廃棄物処分場をはじめとする大規模な解体工事の減少により、リサイクル率の高いコンクリートガラ、アスファルトコンクリートガラの発生量が減少し、完成工事高当たりのリサイクル量が減少したためです。それが全社の数値を押し下げたと考えています。

完成工事高1億円当たりのリサイクル量の推移

